

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		環境問題の解決過程とその基盤となる社会関係資本の地域比較研究			
研究テーマ (欧文) AZ		Regional Comparative Study on the Processes of Solving Environmental Problems with Social Capital as Their Base.			
研究氏 代表 者	カナ CC	姓)フナバシ	名)ハルトシ	研究期間 B	2004 ~ 2006 年
	漢字 CB	船橋	晴俊	報告年度 YR	2006 年
	ローマ字 CZ	Funabashi	Harutoshi	研究機関名	法政大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		法政大学社会学部教授・学部長			
<p>概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)</p> <p>報告者は大学院生 6 名とソーシャル・キャピタル研究会として、大別して以下の調査を実施した。</p> <p>(1) サーベイ調査</p> <p>本調査は、地域社会が保持するソーシャル・キャピタルの在り方と討議・討論の意識に支えられた公共圏の在り方が環境問題の解決と政策的有効性の発揮と相関するという仮説を検証するものである。そして本調査の独自性は次の点にある。第 1 にソーシャル・キャピタルの質的分類を試みた点である。欧米圏および国内のソーシャル・キャピタル論の先行研究では、都市社会学・地域社会学のコミュニティ調査の研究蓄積が示す多様なコミュニティの実態を看過している。そこで既存の都市・地域社会学の先行調査を参考に調査票を設計した。第 2 に公共圏を支える地域社会のエートスとして「討論・討議に関するコミュニケーション意識」に照準した点である。これに関する質問項目は先行調査が不在のため研究会が独自に開発した。</p> <p>本調査の対象地としては札幌市と熊本市を選定し、調査を行なった。調査対象選定の理由は、北海道では、様々な地域で環境や地域開発の問題が政治的争点となってきたこと、伝統的に批判精神が豊かな政治風土が存在していると言われていたなどであり、一方、熊本では反対運動が起きるなかでもダム建設が続き、九州新幹線建設時には様々な環境問題が生じている報告がなされているなど、かつて水俣病を経験した地域としてはその教訓が十分に活かされていないと判断したことである。</p> <p>2005 年 9 月に実施した本調査の結果、討論・討議の意識とソーシャル・キャピタルの質的形態に関して、札幌市と熊本市の間で相違は少ないことと、討論・討議の意識とソーシャル・キャピタルは、ある側面において相関していること、以上の 2 点が明らかになった。本調査に関する基礎情報とより詳しい分析については、添付した 2006 年 3 月発行の調査報告書を参照されたい。</p> <p>(2) フィールドワーク調査</p> <p>この調査は個別地域の環境問題を対象にして (2) で得た知見を (1) に活かす形で両者は相互に関連して進められている。その内容は次の通りである。</p> <p>①静岡県沼津三島コンビナート建設反対運動 (船橋)</p> <p>②北海道における公共事業と地域計画の政策過程 (吉田)</p> <p>③自然保護地域における市民参加 (茅野)</p> <p>④森林管理主体としての林業の衰退問題 (大倉)</p> <p>⑤米軍基地の騒音公害問題 (朝井)</p> <p>⑥歴史的町並みの保存と道路建設をめぐる合意形成過程 (森久)</p> <p>⑦生活騒音・振動被害の実態と被害者による問題解決過程の実態解明 (大門)</p> <p>これらは今後も調査を継続し、研究論文/学位論文や著書として刊行する予定である。なお②④⑤⑥については、以下に示すように、環境社会学会及び日本社会学会の学会誌・大会報告にて研究成果の一部が公表されている (報告時の配布資料を添付)。</p> <p>②吉田暁子, 2005, 「地方自治体における『原発』理念と現実」第 78 回日本社会学会 (2005 年 10 月 22 日, 法政大学)</p> <p>⑤朝井志保, 2005, 「基地騒音公害 - 軍事施設のもたらす環境問題」第 78 回日本社会学会 (2005 年 10 月 22 日, 法政大学)</p> <p>⑥森久聡, 2004, 「歴史的環境保全運動の〈保存する根拠〉と〈保存のための戦略〉 - 福山市・鞆港保存運動を事例に」第 30 回環境社会学会 (2004 年 12 月 11 日, 武蔵工業大学)</p> <p>⑥森久聡, 2005, 「地域社会における政治的・社会的地位の空間的位相 - 福山市・鞆の浦地区を事例に」第 78 回日本社会学会 (2005 年 10 月 22 日, 法政大学)</p>					
キーワード FA	ソーシャル・キャピタル	公共圏	札幌市・熊本市	地域環境問題	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA				研究課題番号 AA							
研究機関番号 AC				シート番号							

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	「靱港保存問題に関する基礎的な研究資料」							
	著者名 ^{GA}	森久聡	雑誌名 ^{GC}	『社会研究』					
	ページ ^{GF}	74~125	発行年 ^{GE}	2	0	0	4	巻号 ^{GD}	35号
雑誌	論文標題 ^{GB}	「地域社会の紐帯と歴史的環境- 靱港保存運動における〈保存する根拠〉と〈保存のための戦略〉」							
	著者名 ^{GA}	森久聡	雑誌名 ^{GC}	『環境社会学研究』					
	ページ ^{GF}	145~159	発行年 ^{GE}	2	0	0	5	巻号 ^{GD}	11号
雑誌	論文標題 ^{GB}	「支配システムにおける問題解決過程- 静岡県におけるコンビナート建設阻止を事例として」							
	著者名 ^{GA}	船橋晴俊	雑誌名 ^{GC}	『社会志林』					
	ページ ^{GF}	未定	発行年 ^{GE}	2	0	0	6	巻号 ^{GD}	53巻2号
図書	著者名 ^{HA}	法政大学社会学部船橋研究室 ソーシャル・キャピタル研究会（編）							
	書名 ^{HC}	「コミュニケーションと社会生活に関する意識調査」報告書- 札幌市と熊本市を対象に							
	出版者 ^{HB}	法政大学社会学部船橋研究室 ソーシャル・キャピタル研究会	発行年 ^{HD}	2	0	0	6	総ページ ^{HE}	pp. 124
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}			発行年 ^{HD}				総ページ ^{HE}	

欧文概要 EZ

We have organized a study group of social capital, and have conducted some social research projects.

(1) Social Survey

The aim of our social survey is to test the supposition that social capital of the community and the public sphere correlate with environmental problem solving processes and implementation of environmental policies. We selected the cities of Sapporo and Kumamoto as our research area. We focused on the social consciousness of discussion method from our own viewpoint based on precedent studies about social capital and public sphere, and formed relevant questionnaires.

Although the results showed few differences between Sapporo and Kumamoto in terms of social consciousness of discussion method and social capital of the communities, we found that they correlated in certain aspects. For a more extensive analysis, see the report published in March 2006.

(2) Fieldwork

Each member carried out fieldwork on the various issues of environmental problems. (1)The social survey and (2)fieldwork are linked, since the questionnaire is based on knowledge gained from the fieldwork. The cases are as follows:

- ①The social movements against the petrochemical complex in Numazu-Mishima, Shizuoka. [H. Funabashi]
- ②The policy process study on public works and regional planning in Hokkaido. [S. Yoshida]
- ③Citizen participation in the area of nature conservation. [T. Chino]
- ④The decline of Japanese forestry and forest devastation. [S. Okura]
- ⑤The problem of noise pollution from U.S. military bases. [S. Asai]
- ⑥Consensus-building between historic preservation and road construction. [S. Morihisa]
- ⑦The problem solving processes for the hazards of neighborhood noise and vibration. [S. Daimon]

We will continue to study these cases, and publish the results as research papers or doctoral dissertations. In this context, ②④⑤⑥ have been published as a part of our research results at the congress of the Japanese Association for Environmental Sociology and the Japan Sociological Society.